

**住職の終活講座、
澄川地区センターにて開催**

不定期にて実施している終活講座ですが、先般六月二十七日、澄川地区センターにて開催致しました。今回のテーマは「お墓と納骨」だったのですが、思った以上に反響が大きくなり、定員の二十五名を上回る参加依頼がありました。私自身も場数を踏んできた分、手応えは十分であり、来て頂いた皆様には楽しんで頂けたかと思えます。内容的にも参加者の皆様が開きたいポイントを押さえ、情報自体が有効であるだけでなく、時折笑いの起るような楽しい雰囲気でも進められました。そして、昨今の終活事情を一僧侶の目からはこう見える：「というところを意識して伝えられたかと思えます。後日お寺まで御礼に訪ねて来られた方もいます。嬉しい限りです。これまで気軽に足を運べるようなお寺づくりを掲げてきましたが、お寺の敷居を跨ぐのにまだまだ抵抗感がある人も少なくありません。だからそこを側から外に出向いて最初のきっかけを作ることが、安心感を与える近道となり、地道に続けていくことでビジョンの実現化に繋がっていくと確信しています。今後は不定期ではありますが、町内会館での終活講座も続けていきたい所存です。」



澄川地区センターで行われた終活講座の様子
～これからの時代に知っておきたい！～
「納骨とお墓のお話」

住職が市内イスラム教イベントに参加！

以前にもご紹介した市内イスラム教モスクとの交流についてですが、その一環として五月十一日に行われた大イベントに参加致しました。イベントではイスラム教の断食（ラマダン）についての講話や、イスラム教徒の食事の試食、イマームさん（仏教でいう住職）との質疑応答など盛り沢山の内容でした。今回特に印象的だったのは、イマームさんのお話の中で、この日本ではイスラム教とテロ行為が安易に結びつけられており、そのイメージが強いということでした。私達日本人は島国という特性と風土の中で暮らしを営み、その結果あまり他の民族や宗教に対する理解は深くありません。ですので未だにある種の先入観を拭き切れず、事実とは異なる認識を持っている場合があります。イスラム教とテロ行為が直結しやすいというのもその事例の一つでしょう。イマームさんは、この誤解に対して深い悲壮の念を抱いており、日本人に真実をしつかりと見てほしいと切に訴えていました。過去五年間にヨーロッパで起きたテロ事件のうち、イスラム教徒による犯行は全体の2パーセント未満だそうです。私も含めこの数字には、持っている印象と随分違うと思われ



(上) イマームさんとイスラム教徒の皆さん
(下) ステージ上での礼拝の様子

る方も多いはず。いずれにせよ、日本がもう少しイスラム教徒にとって住みやすい国になるべきかと思えます。大きな啓蒙活動は出来なくても、同じ宗教者として、イスラム教徒と地域住民の相互理解における橋渡しの役割を担うことぐらいは出来るかと考えています。今後協力出来ることを模索しつつ親交を深めていきたいと思えます。

三度目の花火大会観覧イベント！

七月六日、当寺屋上にて三度目の花火大会観覧イベントが実施されました。寺子屋イングリッシュのお子様方ご家族を中心に総勢百名少々が集まりました。私達は子供達にプレゼントす



(右) かき氷の列に並び注文をする子供たちの様子
(左上) 屋上からの花火 (左下) 三回に設置した休憩スペースの様子

るヨーヨーやかき氷に使う氷などを準備し、過去二回の経験を活かし行事に臨みました。三度目ともなると、一回目のドキドキ感はなく、全てに落ち着いて対応することが出来たかと思えます。事前の整理券の発行により人数制限もはっきりと機能し、頃合いよく動員が出来たことが一番の成功の要因でした。私と嫁はひたすらかき氷を作り、疲労も多かったですが、お寺全体が子供達の笑い声に包まれ、元気を注入されたような気がします。こういった光景は、本来お寺のあるべき姿ですが、実はそれが簡単のようで難しいのが現状です。というのは、お寺がお寺側から地域への働きかけを怠り、脆弱な体質が長い年月で身に付くと、行動を起こしづらくなるからです。確かにこういった行事には手間がかかりますが、その手間を極力避ける方向には進むべきではありません。回数を重ねることで、毎年当たり前になっていく；良い意味での癖を付けていくという点において、この一手間を惜しまないということは、大事なことでだと考えています。そしてその姿勢そのものを歴史に刻み、後世に残していきたい所存です。

お寺の増築工事、現在進行中！

ご存知の方も多いかと思いますが、現在お寺では増築工事を実施しています。今まで自宅側の駐車スペースは縦列で停めることの出来る奥行きがありました。が、実際縦列駐車にて使用する頻度は年に数回しかありませんでした。ここ数年で日常のお寺の稼働率は劇的に上がり、この縦列分を最大限有効活用しようというものが当面の狙いです。屋内の面積が増えた分、住居部分は一階で完結するので、その二階部分に今度は本堂が出来ます。少しスケールが大きくなり、既存の本堂よりもう少し本堂らしくなる予定です。(笑) また駐車場の奥行きは狭くなる予定です。が、ロードヒーティングの導入により冬



(上)五月中旬 (下)七月中旬 工事進行状況

期間の駐車がスムーズになります。今回のこの新本堂について特筆すべきは、本堂を仏式法要の場所という前提で作らないということ。この場所以して構築し、それをたまたま何か別なことも利用する；というのが既存の形態ですが、最初から法要のみを最優先にはせず、様々な可能性に対応出来るスペースに本堂の趣意も備える；というコンセプトです。一見大きく変わらぬものの、このように思いますが、法要とそれ以外の活用手段とのパワーバランスが全く違うわけです。具体的には、開閉式の間仕切りを準備し、同時に複数の用途で使える空間をプランニングしています。本堂そのものの捉え方としては、「本堂を軽く考えている」といった僧侶の先輩方からの賛否はあるかと思えますが、私は迷わず来てくれる人の需要とその価値創造をとるべきと考えます。元々私自身、気位が高くもなく、大きなお寺を建てたいともあまり思いません。増してや従来のお寺の修繕のように寄付を募ってまでそれを完遂しようという気持ちは、小さくても出来ません。これまで数回に渡り、しかも短いスパンでウワモノに取り組みできましたが、全てお寺の成長を見極め、持ち前の「気の小ささ」をもって慎重に進めてきたつもりです。(笑) 今回についてもその基本姿

勢は変わらず、身の丈に合うものを家族と共にやっていきたい；というところは、今後もブレないかと思えます。何より私自身、自分のこの「気の小ささ」を気に入っています。(笑) 完成にはもう暫く時間が掛かりますが、皆様には是非足を運んで頂きたいと思っております。

ホームページにて住職の考察を紹介

お寺のホームページですが、今回新しくコーナーを設けました。「住職はこんなふう考えています。」と題して、お寺の考え方を各テーマごとに紹介することにしました。歴史や外観などを伝えることも大切ですが、何より考え方を理解してもらうことも大切であり、そこに共感してくれる方も多く認識しています。この寺報もそうですが、○○がありましたが、○○をやるのではなく、○○が合ったゆえ私はこちらを考えます、あるいは、私はこちらの方を伝える○を心掛けています。という様式で考え方を伝えるように心掛けています。そうすることで事務的な報告文を少しでも体温の伝わるものにした

住職はこんなふう考えています...

お寺について 檀家制度について 納骨について 終活について

ホームページのリニューアル部分
(住職紹介ページの中段からご覧になれます。)
各キーワードの上をクリックすると、
住職のブログへリンクするようになっていきます。